文化人 末松謙澄

vol.1

来年（令和２年）は、郷土の偉人 末松謙澄の没後百年を迎えます。この機会に謙澄の文化、芸術面での活躍に光をあて、広く紹介していくことを目的として、 市内の文化関係者等々が集まり「文化人 末松謙澄を考える会」が結成されました。

これからその会の会員の方々に 12 回にわたり末松謙澄の文化面でのさまざまな活躍を連載していただきます。

末松 謙澄（けんちょう）（1855 ～ 1920）

「文化人 末松謙澄（けんちょう）を考える」

今回、「市報ゆくはし」に連載するにあたり、末松謙澄を「考える」という言葉に触れておきたい。ここでの「考える」は「深く掘り下げる」ことではなく「思いを巡らす」という意味合いが強い。謙澄が文化面に残した幅広い業績を市民の皆さまと共にたどりながら、謙澄という郷土の偉人にあらためて思いを巡らせていきたい。

行橋市出身の末松謙澄は、明治期に中央政界で活躍した政治家であり、多才な文化人でもあった。逓信大臣や内務大臣などを歴任した政治家としての末松謙澄についてはよく知られているが、「謙澄は単なる政治家ではなかった。むしろ、文化的な仕事の方に向いていたのかもしれない」とも評されている。

新聞記者、歴史家、小説家、評論家、法律家、教育者、詩人、歌人、俳人等多岐にわたって足跡が残されており、「知の巨人」ともいわれている。

末松謙澄は安政２年（1855 年）京都郡前田村（現行橋市前田）の大庄屋末松房澄の四男（第七子）として生まれた。10 歳になった謙澄は村上佛山の私塾水哉園に学び、薫陶を受け、明治４年（1871 年）上京した。

佛山は、謙澄の出立にあたって「我が門に入りてより已（すで）に５年　今朝別れを告ぐ意（こころ）茫然たり」と別れを惜しんでいる。

翌年、高橋是清（これきよ）（1854 ～ 1936 年 蔵相、首相、農商務相などを歴任）と知り合う。謙澄は是清から英語を、是清は謙澄から漢学を学んだ。この出会いが以降の謙澄の人生に与えた影響は極めて大きい。

明治７年には若くして英語と和漢の文才を認められ、東京日日新聞に入社。社長である福地源一郎の知遇を受け、翌年福地の紹介で伊藤博文を知り官界に入った。

（「文化人 末松謙澄を考える会」 徳永文晤）

末松 謙澄の 紙芝居ができました！

「文化人 末松謙澄を考える会」の活動の一環として、会のメンバーでもある「ゆくはし屋根のない博物館市民学芸員の会」の方々が作成。

地元出身の偉人でありながら、市民に十分に知られているとは言えない末松謙澄を、小中学生から大人まで広く知ってもらいたいとの思いで作成したもので、今後は小中学校や各公民館、老人クラブ等々で披露していく予定です。紙芝居をぜひ活用したいという団体等ありましたら、お気軽にお問合せください。

■問合せ：文化人 末松謙澄を考える会事務局
（行橋市歴史資料館）TEL 25-3133

紙芝居でわかりやすく！
子どもや、大人も子どもに戻ったような感覚で親しんでもらいたい！